

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171000454		
法人名	医療法人社団 福寿会		
事業所名	コスモス苑「赤とんぼ」		
所在地	岐阜県郡上市白鳥町白鳥405番地1		
自己評価作成日	平成28年 6月27日	評価結果市町村受理日	平成28年 8月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosvCd=2171000454-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 中部社会福祉第三者評価センター		
所在地	岐阜県関市市平賀大知洞566-1		
訪問調査日	平成28年 7月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

白鳥町の中心部に近い住宅街という環境の中で、地域社会との交流を深めながら、その地域の一人として意識を持ってもらい、日々の生活の中で、生き甲斐を持って楽しく心安らかに生活していただけるような心細やかな、支援ができるよう取り組んでいる。
医療法人社団 福寿会としてグループホームの他に、小規模多機能型居宅介護、特定施設入居者生活介護、短期入所生活介護、居宅介護支援のサービスを行っており、それらの施設と連携を取りながら、利用者や家族の希望に沿った、個々の利用者に適した総合的なサービスの提供を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体である病院は高齢者に関わる複数の事業を展開し、地域に根差した福祉、医療両面の拠点として貢献し、地域の信頼を得ている。ホームの理念のポイントに「利用者と地域との関係を大切にする」、「地域に貢献するホーム」を唱え、ホームの夏祭りは町全体で展開する「白鳥踊り」の会場も兼ね、自治会の協力する屋台が立ち並び、地域の夏の風物詩ともなっている。
ホーム横の法人の広い駐車場は、夏祭りに限らず地域のイベントの会場としても提供しており、多面的に連携する関係を築いている。利用者は参加可能な行事には積極的に参加し、馴染みの交流の機会を笑顔で楽しんでいる。地域を巻き込んで利用者の普通の暮らしの継続を支援し、家族の協力を得て、利用者のみならず職員も生き生きと暮らす棲家である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を常に念頭に置き、共有し、事故が無いように、また、笑顔で過ごせるよう介護に努めている。	法人理念と地域密着型サービス事業の理念を策定し、ホーム内に掲示している。理念の骨子である「利用者との関係を大切に」、「地域に貢献する」の実践として、地域の行事に積極的に関わっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	買い物、美容院の利用、地域の行事の参加など、地域の交流に努めている。また、白鳥踊りでは苑庭が会場になっているので、利用者様が参加して楽しんでいただいている。	ホーム主体の夏祭りは地域振興の「白鳥踊り」の会場も兼ね、自治会の屋台の出店協力もあって地域の夏の風物詩ともなっている。この日は、法人の広い駐車場が「白鳥踊り」の会場として利用される。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方から、相談されたり、聞かれた場合は説明して理解していただくよう対応している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議での結果を職員間で話し合い、サービスの向上に努めている。会議で出た意見は申し送りやケア会議で職員に伝え、良いサービスができるように努力している。	年6回開催の会議は利用者、家族、地域、行政と多くの参加を得ている。会議は外部評価の結果公表、防災訓練の振り返り、地域や行政の地域情報の提供と、ホーム運営に有効な意見を交換している。	会議の役割として、会議メンバーによる目標達成計画の進捗管理(モニタリング)を実施し、目標達成計画の完全実施(目標達成)を目指してほしい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	月に一度介護相談員が来られ、意見を聞いたり、職員の思いなども伝えている。	行政の直接担当は法人の施設長が担っており、相談、報告等に出向いて連携する関係を築いている。行政からは毎月介護相談員の訪問を受け、意見交換の機会を設けてホームの運営に活かしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本的に拘束はしないが、場合によっては家族様に連絡、相談をして安全第一を考えている。 又、玄関の施錠は人での少ない夜間から朝まで、利用者様の方が外へ出ることが続いた場合により安全の為に施錠している。	利用者の安全確保を考慮し、妥当と判断した場合には家族に相談し、一時的な実施を前提に最小限の拘束を行い、記録を残している。職員は拘束をしない意識、知識を有しており、拘束が恒常的にならないよう努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員が理解して話し合い、相手の立場になって接するよう防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今後研修、学習会などがあれば参加して学びたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に家族様に理解をしていただくよう十分な説明をして、利用者様や家族様の不安な気持ちを聞くように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を設けたり、面会に来られた時には、普段の様子を伝え、家族様からの苦情に耳を傾けて、職員間で話し合いをし反映している。	家族の訪問時に、職員が積極的に家族の意見を確認するよう努めている。訪問の難しい家族には、隔月のホーム便りに加え、毎月利用者担当職員の直筆の手紙を送付し、利用者の様子を伝えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ケア会議等で話し合い、職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させるようつとめている。	毎月職員の会議を開催し、職員の意見を表す機会としている。ベテランも若手職員も遠慮なく意見や質問ができる環境であり、笑顔のチームケアを実践し、利用者の穏やかな暮らしを継続している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の職員の努力や実績、勤務状態を把握し資格所得のための支援を行っている。また、昇格や資格手当での支給等により、向上心を持って働けるよう配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会や勉強会など、参加の機会がある。自らが利用させていただくよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入している。研修会の参加などしている。他施設の交流はあまり行っていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様の様子を見ながら話をしてコミュニケーションをとっている。また、本人様が困ったこと、要望などを聞き、安心していただけるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	苑便り、個人便りなどを家族様に送り、生活の状況を知ってもらい安心していただけるよう努めている。また家族様の要望なども聞いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様と家族に方との情報で、サービス計画を作成し、必要なサービスを家族様との話し合いの中で見極め、対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の自主性を尊重しながら、人生の先輩として尊敬の心で接して信頼関係を築いている。 利用者様と共に作業を行い、支えあえる関係となれるよう努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様と協力で話し合い、手紙等で連絡を取り合っていたい。利用者の方の思いを家族に面会で伝え、共に支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に来られた方には理解をしていただき、関係が途切れないように努めている。 苑外の散歩に行く機会を持ち、馴染みの場所や人と少しでも関わるよう努めている。	地域の知人の訪問があり、隣接する同法人の別のグループホームの知人利用者と互いに行き来している。神社や寺院等、利用者の希望する馴染みの場所への外出も可能な限り支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一緒に出来るレクリエーション等をして、職員が間に入って声かけをして努めている。また、気の合う人、合わない人といろいろな面を考え、席替えなどして配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された方や家族の方に対し、様子を見に行ったり、家族様からの相談を受け対応している。経過をフォローして支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の会話や生活を理解して職員同士話し合いをし、出来る限り思いがとおるよう、努めている。	利用者の「うなぎを食べたい」、「温泉に行きたい」等の希望を日常的に聞き取り、申し送りや職員会議に諮って叶えるよう努めている。計画作成担当者は、聞き取った意向や思いの介護計画への反映も意識している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	前施設からの情報や家族様からの話などで、これまでの生活歴を知り、一人ひとりの希望に沿えるよう個別記録などを見て理解するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録や申し送り等で、利用者の方の体調や、心身状態を知り、その人に合った一日の過ごし方をさせていただいている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様のニーズや記録などから、家族様から聞き適した介護ができるように、ケア会議等で話し合い意見等反映し、計画作成している。	利用者、家族の意見を確認のうえ、職員会議の意見交換を行い、介護計画を見直している。介護計画の実施の検証は毎月行い、次の計画見直しに反映させている。	計画作成担当者である介護支援専門員の改善・改革意識が高い。行政との調整の中で、真に「利用者のための計画」の作成を可能とする様式の改善・変更を期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人ひとりの訴えや状態を申し送り等で記録して、職員間で話し合いや相談をして見逃さないよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様の状態は常に変わってきているのでその変化を見逃さないように、職員同士話し合いをして柔軟な支援、サービスに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事やボランティアを活用して支援している。また、地域の祭りなど参加して地域の方との交流をして楽しんでいただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設に併設している医院の主治医と家族と話し合いをして、適切な治療が受けられるよう支援している。	ホームの母体が病院であり、利用者、家族は母体の病院をかかりつけ医とすることを希望している。病院は隣接しており、家族は安心して利用者を託している。訪問歯科とも提携し、利用者の歯の健康にも留意している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	生活の中で変化に気づきその都度看護師に報告して主治医の指示を得て、対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、病院と情報交換し、治療方法を家族と共に聞いて入院後は面会に出向き状態を聞き、退院後の相談も受けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に家族と話し合い重度化し場合には、家族様に早めに連絡相談をして終末期に向け良い支援ができるように努めている。	これまでに複数の看取りを経験している。家族から看取りの希望のある場合は、母体である病院と連携し、終末期は家族の泊まりをも支援し、後悔しない支援に努めている。複数の職員は看護師資格を有し、終末期の医療的ケアにも十分な力を発揮している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訓練はしていないが、緊急時は常に職員同士が確認しあい、急変などには対応できるよう日頃から気をつけている。救命講習を受けている人もいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年消防署と自治会との合同の避難訓練を実施して、避難方法、夜間対応など確認して訓練に参加している。	年2回消防署立ち合いの下、地域や家族の参加を得て夜間も想定した訓練を行い、災害時の相互協力の体制作りを努めている。通報システム、火災報知器、スプリンクラー、煙探知器を設置し、万全を期している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの利用者様の性格や状態を理解して、今までの人生を尊重し対応している。	職員は丁寧に利用者へ接し、過剰な支援にならないよう配慮して利用者のプライドを損なわない支援を実践している。呼称は利用者の好む呼び方とし、利用者が心開くよう配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定が出来る方がなかなかできないので、いろいろな場面で声かけをして、積極的に働きかけ希望に沿うよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課にそっているが、共同生活なため全て自由というわけでないが、その日の体調、状態を知り、その人に合った過ごし方をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節の衣替えには、家族様にもってきていただき、一緒に選んでいる。また、定期的に美容院に行き、おしゃれが出来るよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル拭き、野菜の皮むき、食器の片づけなど、利用者様がやっていただけることは、やっていただいている。	調理専門職員を配置し、温かく美味しい家庭的な料理を提供している。飲み込みの難しい利用者には半粥やミキサー食を提供し、危険のない状態で提供している。料理の下ごしらえ等に利用者の関わりがある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の指導のもと、一人ひとりに必要な栄養、量、形態など配慮している。水分不足になりがちの方は、水分ゼリーなどを提供し、熱中症予防のため、こまめに水分補給を実地している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後には必ず口腔ケアを行っている。夕食後は入れ歯を預かり、夜間に洗浄剤を毎日使用して清潔にするよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックをつけてパターンを把握し、習慣を生かし声掛けをして自立に向けた支援を行っている。	排泄記録を取り、排泄自立している利用者には最小限の支援に抑えている。支援の必要な利用者には適切な声掛け、誘導を行い、排泄の失敗を防止するよう取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表にして排便状態をチェックし、食事内容、水分、運動など対応している。看護師や医師に相談しながら、一人ひとりに合わせた予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっているが、体調や希望に応じて入浴日を変更したり、柔軟な対応をしている。	週2回入浴が基本であるが、利用者の体調や希望に沿って入浴日を変更し、柔軟に支援している。歩行の難しい利用者の増加から、安心且つ落ち着いて入浴できるようリフト浴を設置している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調の良い方は、日中散歩運動など行っている。一人ひとりの生活習慣や日々の状況に応じて休息していただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師と相談して薬の目的を理解している。処方記録にて内容をチェックし、服薬前には間違いがないように確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	天気の良い日は苑庭で歌、散歩などして楽しんでいただいている。レク活動、行事など楽しい時間を提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	花見や遠足など、行事があるときは出かけている。本人様の希望があれば、家族の方にお知らせして、協力をいただいている。	日課の散歩や近所のカフェへの外出を、外気に触れる気分転換の機会としている。ドライブ外出では、桜の名所やゆり園、紅葉見物等に出かけ、利用者の喜びにつなげている。利用者の重度化から、家族にも協力を要請して個別外出に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	トラブル防止上、苑で管理している。 必要なときは、希望に応じて職員が同行して対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を書いたり、利用者様の方の希望があれば電話が出来るように対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間に季節の草花や絵などを飾ったり、季節感を取り入れ、心地よく過ごせるよう工夫してる。	リビングは壁に季節の飾り付けを凝らし、明るく広い清潔な空間である。利用者の座るリビングのテーブル席は相性や支援の度合いを見極め、利用者が穏やかに過ごせるよう配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1階、2階、廊下などに椅子を置くなどして自由に雑談できるようにしている。 気の合った方と昔話などして過ごしたり、思い思いに過ごせるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様の大切な物、写真等を居室に飾っていただき、工夫している。	使い慣れたラジオ、テレビ、掛け時計や置時計、家族の写真、観葉植物等、多彩なものが自由に持ち込まれている。全ての部屋に簡易洗面台があり、一部トイレを配置した居室もあった。	一部馴染みの家具や調度がほとんどない居室も見られた。家族の協力を仰ぎ、利用者がこれまでの生活の延長として過ごせる居室づくりを期待したい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレに自分で行けるよう、ベッド配置など考慮している。 入り口には名札をして、トイレの場所など分かるよう配慮して、安全に生活できるよう工夫している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171000454		
法人名	医療法人社団 福寿会		
事業所名	コスモス苑「赤とんぼ」		
所在地	岐阜県郡上市白鳥町白鳥405番地1		
自己評価作成日	平成28年 6月27日	評価結果市町村受理日	平成28年 8月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosvCd=2171000454-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 中部社会福祉第三者評価センター		
所在地	岐阜県郡上市市賀大知洞566-1		
訪問調査日	平成28年 7月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>白鳥町の中心部に近い住宅街という環境の中で、地域社会との交流を深めながら、その地域の一人として意識を持ってもらい、日々の生活の中で、生き甲斐を持って楽しく心安らかに生活していただけるような心細やかな、支援ができるよう取り組んでいる。</p> <p>医療法人社団 福寿会としてグループホームの他に、小規模多機能型居宅介護、特定施設入居者生活介護、短期入所生活介護、居宅介護支援のサービスを行っており、それらの施設と連携を取りながら、利用者や家族の希望に沿った、個々の利用者に適した総合的なサービスの提供を行っている。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p> </p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を常に念頭に置き、共有し、事故が無いように、また、笑顔で過ごせるよう介護に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	買い物、美容院の利用、地域の行事の参加など、地域の交流に努めている。また、白鳥踊りでは苑庭が会場になっているので、利用者様が参加して楽しんでいただいている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方から、相談されたり、聞かれた場合は説明して理解していただくよう対応している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議での結果を職員間で話し合い、サービスの向上に努めている。会議で出た意見は申し送りやケア会議で職員に伝え、良いサービスができるように努力している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	月に一度介護相談員が来られ、意見を聞いたり、職員の思いなども伝えている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本的に拘束はしないが、場合によっては家族様に連絡、相談をして安全第一を考えている。 又、玄関の施錠は人での少ない夜間から朝まで、利用者様の方が外へ出ることが続いた場合により安全の為に施錠している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員が理解して話し合い、相手の立場になって接するよう防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今後研修、学習会などがあれば参加して学びたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に家族様に理解をしていただくよう十分な説明をして、利用者様や家族様の不安な気持ちを聞くように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を設けたり、面会に来られた時には、普段の様子を伝え、家族様からの苦情に耳を傾けて、職員間で話し合いをし反映している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ケア会議等で話し合い、職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させるようつとめている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の職員の努力や実績、勤務状態を把握し資格所得のための支援を行っている。また、昇格や資格手当での支給等により、向上心を持って働けるよう配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会や勉強会など、参加の機会がある。自らが利用させていただくよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入している。研修会の参加などしている。他施設の交流はあまり行っていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様の様子を見ながら話をしてコミュニケーションをとっている。また、本人様が困ったこと、要望などを聞き、安心していただけるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	苑便り、個人便りなどを家族様に送り、生活の状況を知ってもらい安心していただけるよう努めている。また家族様の要望なども聞いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様と家族に方との情報で、サービス計画を作成し、必要なサービスを家族様との話し合いの中で見極め、対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の自主性を尊重しながら、人生の先輩として尊敬の心で接して信頼関係を築いている。 利用者様と共に作業を行い、支えあえる関係となれるよう努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様と協力で話し合い、手紙等で連絡を取り合っている。利用者の方の思いを家族に面会で伝え、共に支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に来られた方には理解をしていただき、関係が途切れないように努めている。 苑外の散歩に行く機会を持ち、馴染みの場所や人と少しでも関わるよう努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一緒に出来るレクリエーション等をして、職員が間に入って声かけをして努めている。また、気の合う人、合わない人という色々な面を考え、席替えなどして配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された方や家族の方に対し、様子を見に行ったり、家族様からの相談を受け対応している。経過をフォローして支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の会話や生活を理解して職員同士話し合いをし、出来る限り思いがとおるよう、努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	前施設からの情報や家族様からの話などで、これまでの生活歴を知り、一人ひとりの希望に沿えるよう個別記録などを見て理解するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録や申し送り等で、利用者の方の体調や、心身状態を知り、その人に合った一日の過ごし方をさせていただいている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様のニーズや記録などから、家族様から聞き適した介護ができるように、ケア会議等で話し合い意見等反映し、計画作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人ひとりの訴えや状態を申し送り等で記録して、職員間で話し合いや相談をして見逃さないよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様の状態は常に変ってきているのでその変化を見逃さないように、職員同士話し合いをして柔軟な支援、サービスに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事やボランティアを活用して支援している。また、地域の祭りなど参加して地域の方との交流をして楽しんでいただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設に併設している医院の主治医と家族と話し合いをして、適切な治療が受けられるよう支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	生活の中で変化に気づきその都度看護師に報告して主治医の指示を得て、対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、病院と情報交換し、治療方法を家族と共に聞いて入院後は面会に出向き状態を聞き、退院後の相談も受けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に家族と話し合い重度化し場合には、家族様に早めに連絡相談をして終末期に向け良い支援ができるように努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訓練はしていないが、緊急時は常に職員同士が確認しあい、急変などには対応できるよう日頃から気をつけている。救命講習を受けている人もいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年消防署と自治会との合同の避難訓練を実施して、避難方法、夜間対応など確認して訓練に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの利用者様の性格や状態を理解して、今までの人生を尊重し対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定が出来る方がなかなかできないので、いろいろな場面で声かけをして、積極的に働きかけ希望に沿うよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課にそっているが、共同生活なため全て自由というわけでないが、その日の体調、状態を知り、その人に合った過ごし方をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節の衣替えには、家族様にもってきていただき、一緒に選んでいる。また、定期的に美容院に行き、おしゃれが出来るよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル拭き、野菜の皮むき、食器の片づけなど、利用者様がやっていただけることは、やっていただいている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の指導のもと、一人ひとりに必要な栄養、量、形態など配慮している。水分不足になりがちの方は、水分ゼリーなどを提供し、熱中症予防のため、こまめに水分補給を実地している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後には必ず口腔ケアを行っている。夕食後は入れ歯を預かり、夜間に洗浄剤を毎日使用して清潔にするよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックをつけてパターンを把握し、習慣を生かし声掛けをして自立に向けた支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表にして排便状態をチェックし、食事内容、水分、運動など対応している。看護師や医師に相談しながら、一人ひとりに合わせた予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっているが、体調や希望に応じて入浴日を変更したり、柔軟な対応をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調の良い方は、日中散歩運動など行っている。一人ひとりの生活習慣や日々の状況に応じて休息していただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師と相談して薬の目的を理解している。処方記録にて内容をチェックし、服薬前には間違いがないように確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	天気の良い日は苑庭で歌、散歩などして楽しんでいただいている。レク活動、行事など楽しい時間を提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	花見や遠足など、行事があるときは出かけている。本人様の希望があれば、家族の方にお知らせして、協力をいただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	トラブル防止上、苑で管理している。 必要なときは、希望に応じて職員が同行して対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を書いたり、利用者様の方の希望があれば電話が出来るように対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間に季節の草花や絵などを飾ったり、季節感を取り入れ、心地よく過ごせるよう工夫してる。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1階、2階、廊下などに椅子を置くなどして自由に雑談できるようにしている。 気の合った方と昔話などして過ごしたり、思い思いに過ごせるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様の大切な物、写真等を居室に飾っていただき、工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレに自分で行けるよう、ベッド配置など考慮している。 入り口には名札をして、トイレの場所など分かるよう配慮して、安全に生活できるよう工夫している。		